

実施報告 【令和3年6月24日（木）実施】

京都府立東稜高等学校コミュニティスタディーズコース・マネジメントに在籍する2年生 37名の生徒を対象に、災害ボランティア講座を実施しました。

京都府立東稜高等学校コミュニティスタディーズコース・マネジメントは、「環境」「公共」「防災」をテーマに、将来地域社会で活躍を目指す学生を育成され、マネジメント力・リーダー力・クリエイティブ力の3つの力の育成をめざした特色科目のクラスです。（京都府立東稜高等学校 HP より引用）

講座では、被災地に寄り添う災害ボランティアセンターについて、これまでの被災地支援活動から大事にしている三原則『被災者中心・地元主体・協働』や新型コロナウイルス感染に留意したボランティア活動についてお話をさせていただきました。



【生徒の声】

将来、ボランティア活動してみようという思いが前よりも強くなりました。僕は、困っている人がいたら助けようと思うので、自分には、向いている方だなどと思います。

【生徒の声】

ボランティアとは人に寄り添うだけであまり人助けができないのかというイメージがありました。しかし、今回の講義で人の心に寄り添うのも大切な役割であり、そのようなことも人助けになるということを理解できました。

次に、災害対応カードゲームの『クロスロード』に取り組みました。

このゲームは災害を自分事ととらえ、様々な意見や価値観を参加者同士で共有し、他者との理解を深めることを目的としています。併せて、災害時の対応は正解がなく、その時の自身の状況、周りの状況によって判断が異なることを体験することができます。

はじめは遠慮がちに意見を発言する様子も見られましたが、『クロスロード』の目的を伝えることで、徐々に自分の意見を発言され、周囲の意見に耳を傾けておられました。



【生徒の声】

人の意見と被ることが多く、自分の意見と同じだと思えることが多かった中で、新たな意見が出ると、そのような意見もあるんだと気づくこともありました。

【生徒の声】

普段の授業では意見交換が出来なかったけど、できて自分の視野が広がったし楽しかったから。

【生徒の声】

初めてクロスロードをしたけどとても楽しかった。もし自分がカードに書かれている運命にあったときにどう対応するかについて考えることができたのでとても良かった。

皆さん、講義・ワークショップともに熱心に参加されました。今回の授業で災害に対する関心が高まった学生もおられ、私たちの活動が皆さんの視野を広げるきっかけの一つになれば幸いです。

京都市災害ボランティアセンターでは平時にはこのような啓発活動にも取り組んでいます。ぜひご相談ください。